



年頭のごあいさつ

跳躍の2023年 ～うさぎ年を迎えて～



豊田厚生病院
病院長 服部直樹

2019年12月、中国武漢で始まったコロナウイルス感染症は瞬く間に全世界を巻き込み、厳しい感染対策に加え、世界規模でコロナウイルスワクチンを一斉に接種するという人類が経験したことのない疫学的な医療政策が行われました。感染実態とワクチン接種状況を鑑みて、2022年半ばからヨーロッパを中心として多くの国々がコロナ感染対策を解除しており、昨年12月にカタールで開催されたサッカーワールドカップではコロナ前のように、喝采する観客の熱狂が中東の熱波ともに世界中に発信されました。

一方、日本では国民の自主的な自粛に基づいた感染対策と全国規模のワクチン接種が一定の効果を示しましたが、その副次的な作用として、度重なるコロナウイルスの波状的な流行が断続的に襲いかかりました。ご存知のように、昨年は初頭からの第6波、そして3年ぶりの夏祭りの開催と呼応するように急峻な第7波に見舞われ、さらに晩秋から第8波にじわりじわりと締め付けられています。当院では昨年未までに約1000人のコロナ入院患者対応、20000人近い発熱外来患者診察、約38000回のコロナワクチン接種を行ってきました。

今冬を迎える前に、日本ではインフルエンザ流行のダブルパンチを警戒していましたが、幸い杞憂に終わりそうです。コロナウイルス大流行は日本の社会に大きな影を落としましたが、貴重な教訓も残しました。どんなに離れていても会議は可能であり、基本的な感染対策（手洗い・うがい）はコロナウイルスのみならず多くのウイルス感染症や食中毒に極めて有効であるということです。3年近くの間、日本人の老若男女を問わず、生活様式は一変しました。しかしこの戦いもどうやら希望の光が見えてきました。

令和5年度は、放射線関連の診断・治療を行うための大型・高額医療機器である放射線治療装置やMRI、PET-CT等の更新を予定しております。高度急性期病院としてさらなる充実を図ることで、地域の中核病院・豊田市の市民病院的役割を果たしていくことをお約束いたします。

ポストコロナの新時代を見据えて、私たちは新たな一步を踏み出す必要があります。3年余りのコロナウイルス時代から得た教訓を忘れることなく、大きな糧として、新時代を歩んでいきましょう。不要な場合はマスクを外し、対面で多くの人たちが語り合い、食事を楽しむ。そんな当たり前を取り戻す1年になることを心より祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。